

November 26, 2021

【前日の為替概況】米国感謝祭休場の中でドルがやや弱含み 対円では一時 115.24 円

25日のニューヨーク外国為替市場でドル円は4営業日ぶりに小反落。終値は115.36円と前営業日NY終値(115.43円)と比べて7銭程度のドル安水準となった。米国市場が感謝祭の祝日で休場となり流動性が乏しい中、21時過ぎに一時115.24円と日通し安値を付けたものの、売り一巡後は買い戻しが進み115.39円付近まで持ち直した。

ただ、そのあとはNY勢不在となる中、ポジション調整の動きが中心となったため狭いレンジ取引に終始した。NY時間の値幅は15銭程度、今日一日の値幅も22銭程度と小さかった。

ユーロドルは反発。終値は1.1209ドルと前営業日NY終値(1.1199ドル)と比べて0.0010ドル程度のユーロ高水準だった。NY序盤に一時1.1230ドルと日通し高値を付けたものの、米感謝祭で市場参加者が少ない中、買い戻しの勢いは長続きしなかった。新型コロナウイルスの感染再拡大による行動制限の強化で、ユーロ圏の経済回復が鈍化することへの警戒感から、一時1.1206ドル付近まで下押しした。

ユーロ円は小幅反発。終値は129.31円と前営業日NY終値(129.28円)と比べて3銭程度のユーロ高水準。欧州時間に一時129.53円と日通し高値を付けたものの、買い一巡後はじり安の展開に。3時30分前には129.28円付近まで下押しした。ユーロドルにつれた動きとなった。

もっとも、米金融市場が感謝祭の祝日で休場となったほか、実質的に明日も休みとなることから商いは低調だった。

【本日の東京為替見通し】ドル円 動意に乏しい展開か、米国はブラックフライデー

本日の東京外国為替市場のドル円は、ニューヨーク市場がブラックフライデーのため閑散取引となることで、底堅い展開ながらも上値は限定的だと予想される。

ドル円は、24日に115.52円まで上昇したものの、25日は米国市場が感謝祭で休場、本日もブラックフライデーのため閑散取引となることで、115円台で伸び悩む展開となっている。

しかし、バイデン米政権が主導した協調的な備蓄原油の放出が原油価格の上昇を抑えられなかったことで、インフレ高進が「一時的(transitory)」ではなく、持続的となり、米10年債利回りが上昇基調を辿る可能性が高まりつつあることで、116-118円を目指す上昇トレンドが予想されている。

原油価格に関しては、来週12月2日の石油輸出国機構(OPEC)加盟国とロシアなどの非加盟国で構成する「OPECプラス」の閣僚級会議で、米国、日本、英国、インド、韓国による協調的な石油備蓄の放出に対抗して、原油増産を一時停止する可能性が警戒されている。

ドル円の上値の目処としては、購買力平価からの最大乖離幅+22%で算出できる。1985年のプラザ合意前の240円台が購買力平価から約22%高、2015年6月の125.86円の時も約22%高だったことで、現状の上値目処は、2016年12月15日のトランプ第45代米大統領誕生後の高値118.66円付近が算出される。

しかし、ドル高・円安の進行に対しては、実質実効為替レートが史上最安値圏に入りつつあることが懸念材料となる。すなわち、2015年6月にドル円が125円台まで上昇していた時、黒田日銀総裁が「ここからさらに実質実効為替レートが円安に振れていくことは普通に考えると、なかなかありそうにない」と円安を牽制したのが67.63、10月時点では68.71まで低下して円安値圏でほぼ面合わせしている。現状の115円台では67.63を下抜けている可能性があることで、米財務省からの円安牽制には要警戒となる。米財務省は、為替報告書で「実質実効為替レート」での円安に言及している。

9時30分に発表される10月豪小売売上高の予想は前月比+2.5%で、9月の前月比+1.3%からの改善が見込まれている。予想通りならば、12月7日の豪準備銀行(RBA)金融政策決定会合で、3年国債の利回り目標によるイールドカーブ・コントロール(YCC、長短金利操作)の停止に続く出口戦略へ言及される可能性が高まることになる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:30 ◎ 11月東京都都区部消費者物価指数（CPI、生鮮食料品除く総合予想：前年比0.4%）
- 08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）

<海外>

- 09:30 ◎ 10月豪小売売上高（予想：前月比2.5%）
- 10:15 ◎ デギンドス欧州中央銀行（ECB）副総裁、講演
- 16:00 ◇ 10月独輸入物価指数（予想：前月比2.1%/前年比19.6%）
- 16:45 ◇ 11月仏消費者信頼感指数（予想：98）
- 17:00 ◎ 7-9月期スイス国内総生産（GDP、予想：前期比2.0%/前年比3.2%）
- 17:00 ◎ ラガルド ECB 総裁、講演
- 17:00 ◎ ビスコ伊中銀総裁、講演
- 17:30 ◎ シュナーベル ECB 専務理事、講演
- 19:00 ◎ センテノ・ポルトガル中銀総裁、講演
- 19:30 ◎ パネッタ ECB 専務理事、講演
- 21:00 ◇ 10月メキシコ貿易収支（予想：24.00億ドルの赤字）
- 22:00 ◎ ピル英中銀金融政策委員会（MPC）委員、講演
- 22:30 ◎ レーン ECB 専務理事兼主任エコノミスト、講演
- 感謝祭翌日で米債券・株式・商品市場は短縮取引
- アジア欧州会議（ASEM）首脳会議（オンライン、最終日）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

25日 09:37 エング・カナダ国際貿易相

「米国がカナダ産針葉樹材への関税を17.9%に引き上げ決定、非常に失望している」

25日 16:35 中国商務省

「米国のエンティティリストは米中関係に良くない」

「中国企業への米国の制裁に反対」

25日 21:35 欧州中央銀行(ECB)理事会議事要旨(10月28日分)

「現時点で緩和政策のスタンスを再確認する必要があった」

「金融政策は忍耐強くあるべきだった」

「PEPPは2022年3月までに終了すると予想」

「インフレは一段と上昇するとの予想だが、2022年は低下する」

「中期的な見通しに対する不確実性が高まった」

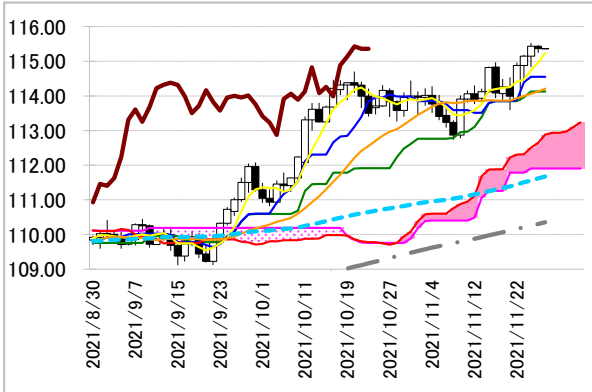
26日 03:08 ベイリー英中銀(BOE)総裁

「インフレを引き起こす供給問題は一時的な可能性」

「不確実な時期にガイダンスを公表するは危険」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

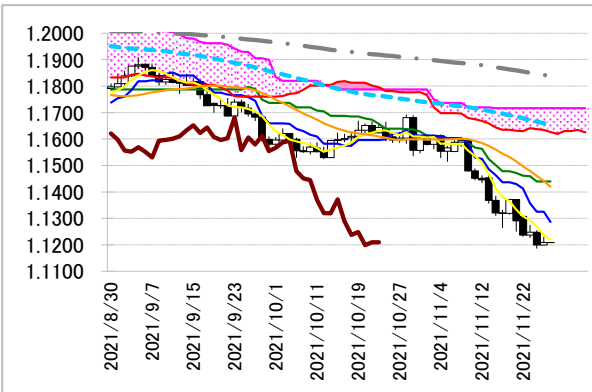


<ドル円＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯している。3手連続陽線で上昇した後、孕み線で反落しているものの、転換線を上回って引けていることで反発の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 2	117.53(2017/1/9 高値)
レジスタンス 1	116.87(2017/1/11 高値)
前日終値	115.36
サポート 1	114.56(日足一目均衡表・転換線)
サポート 2	114.13(日足一目均衡表・基準線)

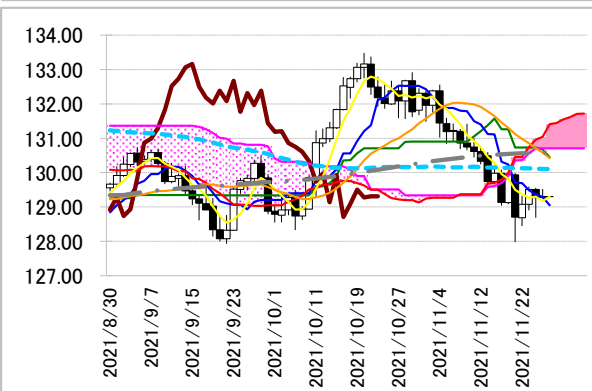


<ユーロドル＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。孕み線で反発しているものの、転換線を下回って引けていることで反落の可能性が示唆されている。

本日は、1.12 ドル後半まで低下してきた転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.1286(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.1209
サポート 1	1.1070(2020/5/29 安値)

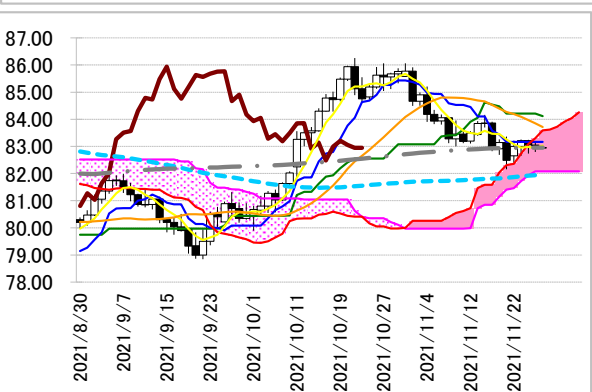


<ユーロ円＝11/22 安値を支持に押し目買いスタンス>

小陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。しかし、孕み線で反発して、転換線を上回って引けていることで続伸の可能性が示唆されている。

本日は、11月22日の安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	130.45(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	129.31
サポート 1	128.45(11/22 安値)



<豪ドル円＝雲の上限を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の中で引けているものの、売りシグナルが優勢な展開となっている。2手連続陰線で下落して、転換線を下回って引けていることで続落の可能性が示唆されている。

本日は、雲の上限を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	83.59(日足一目均衡表・雲の上限)
前日終値	82.95
サポート 1	82.08(日足一目均衡表・雲の下限)

